

【第19回聖路加看護学会学術大会：シンポジウム】

映像による“経験”のわかちあい

司会：井部 俊子

本シンポジウムは「映像による“経験”のわかちあい」をテーマとして行った。

まず、射場典子氏にディベックス・ジャパンの取り組みと活動を紹介していただいた。ディベックス・ジャパンは、イギリスのオックスフォード大学で開発された DIPEX (Database of individual Patient Experiences) というデータベースをモデルにしている。イギリスでは10年以上前から、当事者自身による“病い”の経験をデータベース化し Web 公開しており、この取り組みはわが国を含む数か国に波及している。「そこには患者にしか語れない言葉がある」のである。

次に、花岡隆夫氏にご講演いただいた。花岡氏はディ

ベックス・ジャパンの活動に影響を受け、患者会として患者の語りを Web 公開した。当事者として自分たちの経験をまとめ、その経験を伝えるということの意義を語っていただいた。

さらに、武田祐子氏には、専門とされている遺伝看護学の立場から、授業のなかで映像を使った教育のお話をしていただいた。テキストを用いて行う授業とは異なる、映像というメディアを用いた教育方法が学生にどのような反応をもたらすのかを報告していただいた。

「映像による“経験”のわかちあい」が参加者のみなさまに新たな発見をもたらしたものと思う。